

北海道大学病院 男女共同参画推進室の取り組み

様々なライフスタイルを保ちながら社会貢献ができる
医療人育成を目指します。



ごあいさつ

● 病院長 寶金 清博



女性医師の問題は、医師数の不足の観点から、注目されてきました。しかし、ご存じのように、各大学の医学部定員の増加政策により、多少タイムラグがありますが、近い将来、「数」だけを言えば、この問題は解決すると言われております。今後は、地域偏在、診療科による偏在の問題が残されます。

女性就業の問題の中でも、女性医師の問題は、特殊なものではありません。しかし、ライフステージに合わせた就業と社会貢献、教育を受けた地域社会への還元のある方の視点から考えますと、決して女性だけの問題ではありません。男性医師や一定の規制条件の下で就業する医師の問題に広く関わっています。上記の問題の解決の重要な鍵として、女性医師の就業問題は、本院ばかりでなく、医療社会が正面から向き合うべき問題です。

本院も平成22年度から、女性医師等就労支援事業を立ち上げ、様々な取り組みを重ねてきております。育児支援、短時間就業支援など、ライフスタイルに合わせた就業環境を整備することで、北大病院全体の就業環境への好影響が目に見える形になりつつあります。今後、本院が、「地域に愛され、信頼され、力強く前進する大学病院」を目指すためには、女性医師等の活躍は必須の要件です。

「先端医療を北大から・・・北大から世界へ」は、本院のもう一つの目標です。その意味で、「女性医師等の就業環境」の点でも先進的な北大病院を目指して、レベルアップを図って参ります。どうか、皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

● 男女共同参画推進室長 内科II教授 渥美 達也



平成22年から始まった本院の女性医師等就労支援事業は、平成26年4月、北海道大学病院女性医師等就労支援室が正式に発足して、この事業を担うこととなりました。初代の室長として、ご挨拶申し上げます。

他の医療職種と同様に、医師や歯科医師の業務内容が専門化・多様化するにつれ、それに対応すべく費やさなければならない時間は指数関数的に増加しております。したがって、どの医療機関でも、社会に求められる医療を提供するための医師・歯科医師の必要数は、それと平行して増加しています。北海道を含めて、多くの地域で基幹的医療機関ですら医師不足を訴える理由のひとつが、業務量に対する医師・歯科医師数の相対的減少といえるでしょう。

特に、長時間の勤務や当直・休日勤務業務がルーチンである医師の需要数は、いくら全国の医学部が学生の定員を増やしても、未だ充足される見通しはありません。このような背景のなかで、医学部卒業生の3割強が女性であることを考えると、女性医師、あるいは子育て世代医師の労働環境を整備して、医療に参加いただく機会を増やすことの重要性はいうまでもありません。

北海道大学病院は、高度で最先端の医療を患者さんに提供するとともに、医育機関として若手医師・歯科医師の各専門研修をおこない、「一人前の専門医」を養成して社会に送り出す機能をあわせもちます。この専門研修中の医師・歯科医師は、ライフステージにおいてちょうど出産や育児の時期とも重なることが多いステージです。大きなエフォートで育児を担当する女性医師等の復職を促し、効率よく業務や専門研修をおこなう体制を整えること、その結果としてできるだけ多くの能力ある専門医を育成・輩出していくことが本推進室の第一の目的です。

皆様のご理解、あたたかいご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ごあいさつ

● 男女共同参画推進室員(内科II講師) 西尾 妙織



この度、女性医師等就労支援室が男女共同参画推進室と名前が変更されることになりました。女性医師等就労支援室は“女性医師等”という言葉から女性医師を支援する事業である印象を持たれてしまうということから、この度名前が変更されました。医師という職業の特性上、長時間業務、当直、夜間の呼び出し等、子育てを行っている女性がすべての業務を他の医師と同等に行う事は困難と言わざるを得ません。女性医師の割合が増加している現状で、子育て世代の女性医師の離職は、単純に医師不足の問題だけではなく、共に働く仲間の負担増など多くの問題があります。女性

医師の就労環境を支援することは、女性医師のみならず、男性医師も含めた医師全体の就労環境を支援することに繋がります。

また、女性医師のキャリア形成においては、医師国家試験合格者に占める女性の割合が40%になりつつある中で大学にて診療や研究を継続し、リーダーシップをとって活躍している女性医師は極端に少なく、全国的に講師以上の女性教員の割合は5%以下とされます。臨床医としてあるいは研究者としての女性の割合が増加していないのは、育児のためにキャリアアップを断念している若手女性医師が多い事が原因と考えられます。

皆様にご指導いただき、北海道大学病院において女性医師・研究者がキャリア形成を諦めることなく勤務を継続し、男女ともに快く活躍することができるよう、尽力したいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

● 男女共同参画推進室員(特任助教) 清水 薫子



平成29年度から当室は男女共同参画推進室と名称変更いたしました。その背景には女性医師への支援が強調されるイメージでは結局はさまざまな問題の解決には至らず、男性と女性が共に尊重しあい、ライフイベントを経験しながら、それぞれの目標を達成できる職場環境の整備が必要であるという認識が重要であることがあります。

社会の多様化が進むと同時に、医療の現場でも多様性を許容することが必須となっており、また世代による考え方の変化もあります。政府が提言する男女共同社会は「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野にお

ける活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、ともに責任を担うべき社会」とされ、医師においても目標課題と考えられます。一方で医療の存続、質の保持という問題があります。その特異性を踏まえた上で社会に負った責任を果たしていく努力も必要であり、その両輪をさまざまなレベルで調整し、回し続ける試みが自発的に続くことを願います。

当室では上述のような複雑化した現場で医師という専門職を全うしうる人材の育成へも尽力しており、本学の医学生への授業のみならず、医師になる可能性がある中高生への広い活動も重視しております。北海道大学人材育成本部に設置されている女性研究者支援室(FResHU)では女性研究者のみならず、学生・小中高生へのアクティブな働きかけが続けられており、当院も北海道大学の理念の下、横断的構想の合理性も鑑み、微力ながら参画しつつきたいと思っております。

引き続き皆様のご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

取り組み概要

近年、医学部卒業生の女性の占める割合が増加し、男性・女性医師のワークライフバランスの考え方の多様性が進んでおります。この動向は勤務医不足や大学での臨床に携わる医師不足が社会問題になっている現状をより深刻化する可能性があり、男性女性医師がその能力を生かして、子育て等をしながら継続的に就労できる環境を整えることが緊急課題と考えられます。

平成22年度より始まった当事業では、まずは育児の主な担い手である医師の出産・子育ての支援システムの構築や家庭生活を大事にしながらキャリアアップできるような就労システムの充実を目標としました。このシステムは真の男女共同参画を実現するための基礎作りと考え、現在も以下の3点を中心に継続しています。

● 1. 相談窓口

保育や勤務形態、復職など様々な相談を受け付けるほか、ホームページ (<http://hokudaiyoishien.sakura.ne.jp/>) での、保育施設や病後児保育室の紹介等を行っています。

● 2. 復職支援・人材育成・啓発活動

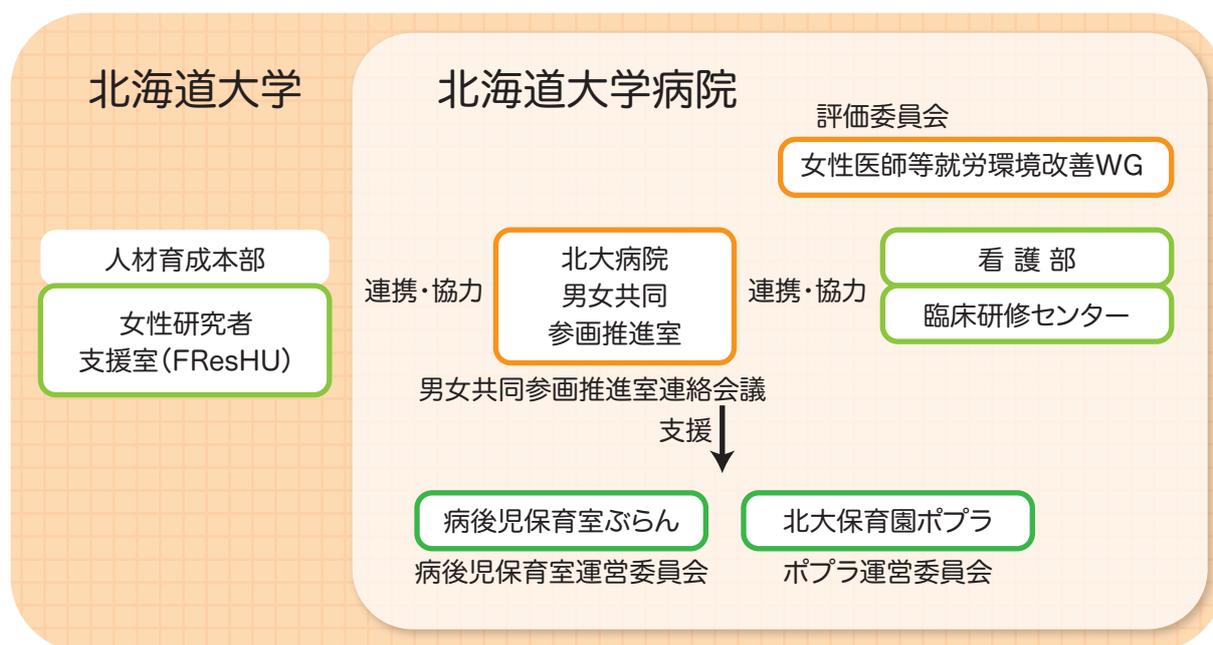
産休・育休からの復職者への研修をサポートすると同時に、復職者を指導する診療科を支援します。またホームページでも、ロールモデルである先輩医師の体験談 (<http://hokudaiyoishien.sakura.ne.jp/message>)・各診療科からのメッセージ (<http://hokudaiyoishien.sakura.ne.jp/support>) を紹介するほか、現役医師とのおしゃべりの会の開催、臨床研修センターとの連携により適切なメンター紹介、医学部授業への介入など、復職世代のみならず、学生・研修医という若い世代への働きかけを行っています。さらに、院内講演会により全職員への情報提供ならびに啓発活動を目指します。

● 3. 育児支援

本院職員から強い要望があった病後児保育室が平成23年2月に“病後児保育室ぶらん”として実現し、子供をもつ職員が安心して勤務できるような環境作りに取り組んでいます。さらに、平成24年度には新たな短時間勤務医員枠である“すくすく育児プラン”を設置し、育児中の医師がワークライフバランスを保ちながら勤務を継続しうる環境整備に努めています。



北海道大学病院男女共同参画推進室 組織図・連携図



男女共同参画推進室

渥美 達也	室長	内科Ⅱ教授
西尾 妙織	室員	内科Ⅱ講師
清水 薫子	室員	男女共同参画推進室特任助教
山岸千恵子	事務担当	総務課労務管理係

男女共同参画推進室連絡会議

渥美 達也	内科Ⅱ／教授
八若 保孝	小児・障害者歯科／教授
西村あや子	薬剤部／薬剤師
高橋久美子	看護部／副看護部長
前澤かおる	医療技術部(歯科外来)／副医療技術部長
阿部 康成	総務課／総務課長
西尾 妙織	内科Ⅱ／講師
清水 薫子	男女共同参画推進室特任助教

病後児保育室運営委員会

北川 善政	副病院長
長 祐子	小児科／助教
高橋久美子	看護部／副看護部長
渥美 達也	男女共同参画推進室長／内科Ⅱ教授
保科 豊次	事務部長
平松 亨	厚生労務室長
森脇 明子	(委託業者)保育運営課／課長
西尾 妙織	男女共同参画推進室員／内科Ⅱ講師
清水 薫子	男女共同参画推進室特任助教
阿部 康成	総務課長
西村 敏信	経営企画課長

北大病院保育園ポプラ運営委員会

松居 喜郎	副病院長
長 祐子	小児科／助教
高橋久美子	看護部／副看護部長
渥美 達也	男女共同参画推進室長／内科Ⅱ教授
保科 豊次	事務部長
長谷山美紀	女性研究者支援室／室長
平松 亨	人事課厚生労務室／室長
齊藤 聖子	子どもの園保育園／園長
森脇 明子	(委託業者)保育運営課／課長
梶原 澄香	保育園ポプラ／園長
大口 剛司	保護者代表／眼科助教
平山留美子	保護者代表／看護師
清水 薫子	男女共同参画推進室特任助教

取り組み紹介

1. 育児支援

病後児保育室ぶらん

お子さんが病気の回復期で安静に過ごさせてあげたい時などにお子さんをお預かりする施設です。専門の看護師や保育士のいる保育室で、ゆったりと無理なく体力を取り戻せるよう過ごせます。

http://hokudaijyoishien.sakura.ne.jp/child_care/child_care_1/buranpage

- 開室日：月曜～金曜(年末年始・祝日除く)
- 開室時間：7時30分～18時30分
- 定員：1日4名(生後6ヶ月～満1歳未満は原則1日2人まで。1歳以上の利用予約がない場合、3人まで利用可。)
- 対象年齢：生後6か月～小学校6年生の児童
- 利用対象：北大病院に勤務する教職員(医学研究科及び歯学研究科所属の診療に従事する職員・学生を含む)の子ども
- 利用料金：1日2,500円 半日(4時間未満)1,500円



病後児保育室ぶらんから皆様へ

ぶらんが開設されてから早6年目と成りました。これまで私達は“ぶらんの役割”について、何度となく話し合ってきました。こうした中でこだわり続けたのが、“お母さま・お父さまの良き協力者で有る事”でした。お会いする親御さんの一生懸命さに心打たれ、可愛らしく個性いっぱいの子供さん達と過ごす日々は、いつも心を満たしてくれました。私達にとっても、ぶらんは、温かく幸せに満ちた場所だったと思います。

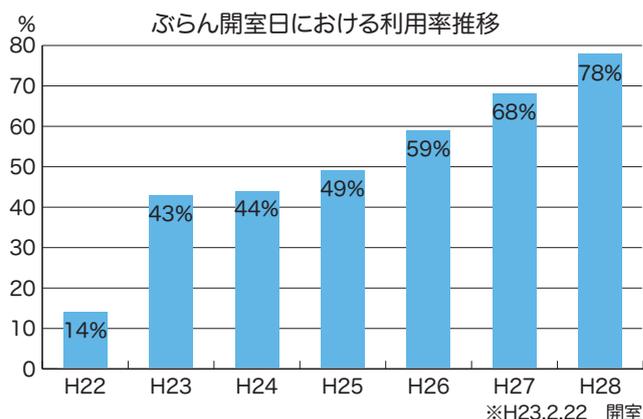
今、新たにぶらんを知って頂ける事と成り、“大切な時間を御一緒出来るかも知れない”との思いでいっぱいです。お逢いできる日を楽しみに、ぶらんを大切な場所として守って行きたいと思えます。

(ぶらんスタッフ一同)

ぶらん利用者の声

突然のお願いでしたが、笑顔で迎えてくれ、早く迎えに行くことができませんでしたが、「大丈夫ですよ」と声かけしていただけたことに感謝しております。

記録が丁寧でわかりやすく安心できました。
(20代看護師)



保育園ポプラ

24時間365日保育

原則、北海道大学病院に勤務する職員の生後3か月から小学校就学前の乳幼児(医学研究科及び歯学研究科所属の診療に従事する職員・学生を含む)※一時保育は登録制。北大職員であれば利用可。(利用状況により受入できない場合も有)

<http://www.huhp.hokudai.ac.jp/hotnews/category/109.html>



すくすく育児支援プラン(育児短時間勤務医員)

女性医師・男性医師を対象とした育児支援のひとつとして設置された短時間勤務医員枠です。

産休・育休等からスムーズに職場復帰できるよう、時間外労働などを免除し、仕事と育児の両立がしやすい環境を整え、さらには外来等担当医師の負担を軽減する人材としての役割も担うことで医師全体の就労環境改善を目指します。

(※予算の都合により募集を終了する場合があります。)

採用期間	4月1日～翌3月31日までのうち希望する期間
給与	時給1,516円(通勤手当支給)
職名	短時間勤務職員(医員)
福利厚生	社会保険等(勤務時間に依りて加入)
勤務時間	相談の上勤務形態を設定(上限あり)
診療	時間外・宿日直業務なし

利用者の声

出産後も働く時間を短くして仕事を続けたい女性医師は少なくないと思います。すくすく育児支援プランは子育てしている女性医師のペースとニーズに合わせて、自分で勤務時間を決められますので、子育てと仕事との両立の難しさを緩和できる、とてもありがたいサポートでした。このプランが今後なくならないよう継続してほしいです。

2. 相談窓口

平成27年より男女共同参画推進室のお部屋が設置されました。

室員とコーディネーターがお待ちしていますので、ぜひお気軽にお越しください。個室なのでプライバシーの心配も不要です。「誰かに聞いてほしい」、「こんな経験のある先生に相談してみたい」「アドバイスをもらいたい」など、面談希望の橋わたし役としてもご協力します！

ぜひお気軽にご相談ください。メール・電話でも受け付けています。



年度別相談件数	年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	件数	3	7	15	23	26	55	56

3. 復職支援・人材育成・啓発活動

現役医師とのおしゃべりの会

年に数回、医学部学生を対象とした「現役医師とのおしゃべりの会」を開催しています。普段ゆっくりお話することのできない第一線で活躍されている先生方をお招きし、お昼の1時間一緒にテーブルを囲んで昼食をとりながら自由にお話しのできる気軽な会となっています。

毎回様々なテーマで各方面の先生方にご協力いただき、参加するたびに新しいお話をきいてもらえるよう企画しています。



第8回 H28. 4.26	どうすれば実現する？女性のキャリアアップを考えよう！ 乳腺外科教授/山下啓子先生 公衆衛生学分野教授/玉腰暁子先生
第9回 H28.10.26	男女共同参画を目指して～リーダーシップポジションにある女性内科医から～ 内科II講師/西尾妙織先生 消化器内科助教/小野尚子先生
第10回 H29. 3. 1	外科医を目指そう！～若手外科医の充実した日々～ 乳腺外科/萩尾加奈子先生 押野智博先生
第11回 H29. 6.29	小児科医の魅力、伝えます！～小児科はどんな科かな？小児科ならではのやりがいを ベテラン医師と熱心に研修中の医師の両者の視点からお話いただきます？～ 小児科助教/長祐子先生 研修医/渡邊敏史先生

利用者の声

仕事をぜひ続けてほしいという強いメッセージが伝わってきて今後自分が働くうえで大事にしたいと感じた。(6年)

普段聞けないプライベートなことについて聞いたのがよかった。(6年)

常日頃、疑問に思っていることを考える機会になり大変勉強になった。(5年)

講演会

年に一度推進室主催の講演会を開催。北大病院の男女共同参画のあり方を皆さんと一緒に考え、それぞれが実践していくことにより、病院全体の環境が全職員にとってより良いものとなっていくよう今後も継続していきます。

平成24年度 H25. 2.13	女性が仕事を続けていくために 「医師として働くのは楽しい!」 乳腺外科 山下啓子先生 「働き続けるための選択肢」 公衆衛生学分野 玉腰暁子先生 「育児と仕事を続けるために重要な5つのポイント」 内科I 長井桂先生	
平成25年度 H26. 2.24	同僚へのサポートは自分を救う?!～支援することで得られるプラス1の人材 「女性医師支援の意義:内科の立場から」 内科II 渥美達也先生 「麻酔科から女性医師がいなくなると日本の外科医療は崩壊する?」 麻酔科 森本裕二先生	
平成27年度 H28. 2. 3	北大病院における男女共同参画への第一歩 「全国における男女共同参画の動向と当院男女共同参画推進室の取り組み」 男女共同参画推進室 清水薫子先生 「皮膚科における取り組み」 皮膚科 氏家英之先生	
平成28年度 H29. 3.13	チームワークが医療を救う!～医療現場・家庭両者の視点から～ 「チーム医療におけるコミュニケーション」 医療安全管理部 南須原 康行先生 「北大病院における男女共同参画 皆が働き続けるために」 男女共同参画推進室 清水薫子先生 「消化器 女性外科医のキャリアサポートとチーム医療」 消化器外科II医局 土川貴裕先生 「女性医師を妻に持つ男性医師の仕事と子育てと留学」 内科I 菊地英毅先生	



復職支援

復職者の希望に応じ復職に必要な教材等の提供や補助を行うほか、復職者を受け入れる診療科に対する支援をおこないます。

復職者の感想

初期研修後すぐに産休・育休に入っていたので復職できるか大きな不安がありました。周囲の皆様が環境を整えてくださり、仕事することができました。

産後は急な子供の呼び出しなどの際に併せて、バックアップ調整をしていただいております。安心して仕事復帰できました。

各診療科からのメッセージの紹介

男性・女性医師が共に働きやすい環境作りを目指し、各診療科においても様々な取り組みを行っています。各診療科長からのメッセージとしてその一部をご紹介します。<http://hokudaijyoishien.sakura.ne.jp/support>



● 内科I 医員 林下 晶子 先生

これから、復帰を考えている先生方へ

私もそうでしたが、子育てと仕事が両立できるかどうか、不安はあると思います。特に、初めての復帰だと、復帰後の生活のイメージがつかないのでとても不安だと思いますし、実際、日々時間に追われて大変です。北大病院は比較的、女性医師支援体制が整っており、勤務形態の自由度も高いので、短時間の勤務から徐々に仕事量を増やしていくことが可能です。また、同じような境遇で復帰している女性医師が多く、相談できたりアドバイスしてもらえるので心強いです。大学病院・市中病院いずれで復帰する先生も、復帰前にしっかり上司と相談し準備しておく、きっと良いスタートをきれると思います。



先輩医師の体験談の紹介

ホームページでは様々なキャリアをもつ先輩医師からの応援メッセージを掲載しています。
ご自身にあったロールモデルを探し、医師として輝くための参考になればと思います。
<http://hokudaijyoishien.sakura.ne.jp/message>

乳腺外科 教授 山下啓子先生

私は臨床が好きですし、そこで疑問に思ったことを解決でき、多くの人の役に立つことができる研究の場も大好きです。若い方にはぜひ自分が興味をもって取り組める分野を見つけて、可能性を広げて欲しいと思います。仕事は、まず第一に楽しくなければと思います。



公衆衛生学教室 教授
玉腰暁子先生

仕事を続けるためにどうすればよいか、という方法を考えてみてください。続けていける道を選ぶことも大切です。これは、最初に進む分野を決めるときだけでなく、「行き詰まったときに考え直す」ことも含めて。



助教 マリア オルガ
アメンゲアル プリエゴ先生

家族が一つのチームになって、いろいろなことを分担し、「仕事を続ける環境をつくり出すこと」が大切です。



教授 渥美達也先生

家族を大事にすること、人を大事にすることは、患者さんや学生に向き合う私たちにとって、たいへん重要なこと。

大学院医学研究院 免疫・代謝内科学教室・内科II
渥美ご夫妻

内科II 研修医 重沢郁美先生

女性医師としてのキャリアの早くから子育てをしている先生はまだ多くはないかもしれませんが、後輩女性医師の方々がライフプランを考えるうえでの1つのロールモデルを示していければ幸いです。



臨床研究開発センター
特任講師 畑中佳奈子先生

自分が「やりたいこと」と「やり続けられること」は必ずしも一致しないこともあります。そのバランスを考えて、自分が納得できるように生活することができればいいですね。せっかく6年間勉強して医師になったのですから、ぜひそのキャリアをどんな形であっても続けてほしいと思います。





北海道大学病院男女共同参画推進室

〒060-8648札幌市北区北14条西5丁目

TEL.011-706-7085

E-mail : jyoseisien1@huhp.hokudai.ac.jp

URL : <http://hokudaijyoishien.sakura.ne.jp/>